

## 私の最後

203X年、「先生のがんを制御することができません」と宣告されたのが数ヶ月前であった。全身化学療法の様につらい治療は行なわず、副作用が少ないことが分かっている分子標的薬だけを選んで使ったつけが回ってきたかとも思うが、自分で選択したことなので後悔はない。この間に家族旅行もできたし、身辺整理も行えた。数年前に原発巣は old style の重粒子線治療し、コントロールできているようだ。それから数年が経ち、骨転移による疼痛がおこるまで平穏に暮らせた。

経過中幾度も CT や MRI の検査を受けた。私はどうも痛みに弱いようで、どこが痛くなるとすぐに医者に泣きつくたちである。概して、医者は痛みに弱いそうではあるが・・・

それにしても昔とは変わった。CT 自体が快適になっている。ベッドに汚れは見当たらず、清潔感にあふれているのは、患者の入れ替えの間に清掃ロボットが活躍するようだ。多少の造影剤の漏れや血液はきれいにしてくれるという。CT 自体のガントリーは大きくなり居住性が良くなった。というよりも装置の中にいる時間が短くほとんど気にならない。管球と検出器間の長さが可変になったことが大きい。検査台には椅子状となっていて、これがゆっくりと倒れることで、臥位になる、終わったらまた椅子のようになる。透明の柔らかな筒状のものに包まれていて、下に落ちる心配は全くない。ストレッチャーや車イスからの移動もロボットの助けを借りて行われるので、ベッドの高さを気にすることはほとんど無いようだ。造影剤は比較的太い静脈の上に万年筆のようなものを置くだけで、自動的に触子を伸ばして痛みもなく血管内にナノチューブを入れる。これを検査室に入る前につけておくと自家血から吸収値の高い物質だけを採取して、造影時に注入する仕組みとなっている。被曝線量の低減は格段に進み、かつ吸収値の差を鋭敏に評価することができる様になったので、ヨード造影剤の投与はほとんど行われなくなった。血管造影や IVR を除き、アレルギーや腎機能についてのインフォームドコンセントも取られなくなった。

昔よく使っていた単純撮影装置は全く無くなり、立位で撮ることや坐位で撮る CT がある。単純撮影はベッドサイドのポータブル撮影だけが残っていると聞いたが、読影が難しいので、最近ではロボットに載せて CT などの検査室まで搬送と言うことが一般的になっている。CT や MRI の撮影が終わるとすぐに放射線

診断医が検査内容について説明をしてくれる様になった。これは大変嬉しいことであるが、とても困難な作業であろうと年寄りと思うのである。裏では以前の検査がある場合はそれと、ない場合には年齢や疾患に相当するデータベースとの比較が自動的に行われる様になり、前回の説明との整合性が保たれる説明がすぐに示唆されているとのことである。放射線診断専門医の腕の見せ所はコンピュータの出す意見に異議を唱え、結果としてコンピュータを成長させるところにあるそうだ。人間はいつまでコンピュータに勝てるのか心配になるが、優しく教えてくれる放射線科医の表情を見ていると杞憂かとも思う。

呼吸抑制もなく意識下で全身の痛みを感じないマスク換気での麻酔法が開発され、最近では気管挿管の手技は減っているそうだ。患者は自分が手術されている様子を見ながら治療を受けることも可能となった。手術と言ってもほとんどはロボット手術となっている。骨転移に対してはもはや RF はもちろん、Cryosurgery も過去の遺物となっている。PET で選択的に転移巣を検出できるようになったお陰で、そこに集積した物質に体外からエネルギーを与えることによって痛みもなくなることができるようになった。簡単に言えば外向きに爆発すれば他の臓器に害をおよぼすが、腫瘍の内向きに向かうエネルギーを瞬時に発現させて消してしまうらしい。治療後の線維化が MRI では黒くみえるので、私の体内には真っ黒の点がたくさん見られる。

生検も直線的な針を刺すことはなくなった。皮膚にカタツムリみたいなものをつけると中から紐付きのセンサーが CT や MRI から得られたデータによって病変まで導かれる。術者は神経を避けてセンサーを進めることで痛みはない。術者が使っているのは昔の鉄人 28 号のコントローラーそっくりだ。

それでも避けがたい人生の終わりを逃れることはできない。もっとも、人体自体の使用期限も来るし、数種類のがんが同時に出現すればそれに対応することはできない。医学にいろんな進歩があっても、いまだ死んでから生き返ったものはいないので、死後の世界はあるかどうかも分かっていない。最近のブームは自殺ではなく、死に方をプログラムすることで、このソフトは 100 歳未満には販売禁止となっている。変わらないことはなるべく痛みや苦しみがなく、家族に見守られて逝きたいというささやかな欲望を人は持ち続けている事だ。